

めむろ新嵐山株式会社への支援金町議会で否決

新嵐山スカイパークは10月11日から休業

9月21日に開かれた芽室町議会定例会で、町が提案した第三セクターめむろ新嵐山株式会社への支援金5,178万8千円の補正予算案は否決となりました。賛成4人、反対11人という結果でした。

町が第三セクターの清算を公表して以降、新嵐山スカイパーク経営改革調査特別委員会で4回の調査が行われましたが、支援金の支出は認められませんでした。

資金繰りひっ迫解消のための支援金提案

新嵐山スカイパークを運営する第三セクター「めむろ新嵐山株式会社（以下「会社」）は、令和元年度から3期連続赤字計上。スキー利用者や宿泊客が年々減少したことにより売上が減少を辿り、令和3年度決算から債務超過に陥りました。令和4年度はかろうじて黒字になったものの、令和5年度になっても収支は好転せず、資金繰りがひっ迫し、会社の運転資金は底を尽きかけていました。町は当初、債務超過に至った要因は、コロナ禍で売上が落ち込んだことと分析。また、新嵐山スカイパーク存続のため、現在の経営手法や財務状況、将来性などを総合的に分析し、第三セクターによる運営は限界と判断し、令和7年3月末に会社を清算する方針を決定しました。

今回提案した補正予算案は、過年度分の委託料と売上実績の乖離分を支援金として補助し、資金繰りを安定させようとしたもの

な改善にならない」「これ以上税金を投入すべきではない」「計画から改善が見込めない」など、反対意見が述べられました。

補正予算が否決となったことに伴い、新嵐山スカイパークは10月10日を以て営業を終了し、休業となります。

町としては、町民の代表である議会の判断を重く受け止めるとともに、新嵐山スカイパークの突然の休業により、町民の皆様、利用者の皆様、関係者の皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけすることとなり、深くお詫び申し上げます。

存続を求める声は多い

町議会の議決後、ホットボイスなどでは町の財産である新嵐山スカイパークの存続を訴える声が多く届いています。

また、町では令和4年12月から令和5年5月までに、町民主体の「新嵐山スカイパーク自分ごと化会議」を計4回開催。無作為に抽出された町民の中から参加希望のあった方を委員とし、新嵐山スカイパークの課題について「自分ごと」として解決策を検討し、委員から町長へ提案書が提出されています。

「新嵐山スカイパークのコンセプトやそれぞれの機能ごとのターゲットを明確にすることで、誰もが楽しめる場所を目指す」「利用目的の多様化を進めることで町内・町外ともに利用者を増やす」など、5つの事項について提案がありました。存続を求める意見やいただいた提案を含めて、在り方を検討してまいります。

今後も協議を継続いたします

新嵐山スカイパークは休業しますが、新嵐山そのものの魅力や資源をなくそうと決めたものではありません。

で、令和6年度末まで会社を存続させ、新嵐山スカイパークの営業を継続した上で、令和7年度以降、第三セクター以外の新たな経営体へ運営を委ねる可能性を模索しようとするものでした。その後、町は、8月21日の調査特別委員会において、債務超過や資金繰りひっ迫の状況に陥った要因について、委託料の乖離や新型コロナウイルスの影響のみではなく、経営状況に対する町の見通しの甘さや会社としての経営責任があることを認め、9月21日の本会議では役員の処分や、今後の経営の見通しなどから清算時期を令和6年3月末に早め、今年度内に新たな担い手を模索していきたい意向も表明しました。

支援金否決「経営改善見込めない」

また、今回支援できなかった場合、同社は事実上倒産し、従業員への給与や仕入れ先への支払い、金融機関への借入金返済ができなくなる可能性が高いことなどの影響を説明しましたが、補正予算案は否決となりました。

議員からは「半世紀に亘り町民に親しまれてきた。憩いの場から稼げる施設への改革は評価。支援金は今後への先行投資」「町の見通しの甘さや町民への周知不足は強く指摘するが、町の経済にも多大な影響があり、長期的な視点が必要」などの賛成意見もありましたが、「新嵐山から町民の心が離れている。本来あるべき姿を数年間成してこれなかったことの現れ。この支援金では本質的

経過説明会を開催します

皆様に多大なるご迷惑とご心配をおかけしました今回の件の経過について、直接説明する場を設けるため、めむろ未来ミーティングを開催します。

10月22日(日)は昼と夜の2回、24日(火)は夜に開催します。限られた時間ではありますが、ご説明させていただきたいと思

いますので、ご参加いただきますようお願いいたします。

めむろ未来ミーティング開催します

テーマ

新嵐山スカイパークについて

開催日時

10月22日(日)
①13時30分～14時30分
②18時～19時
10月24日(火)
18時30分～19時30分

会場

めむろまちゅうおうこうみんかん
芽室町中央公民館
2階 講堂

事前申し込みは不要です。
お時間までに直接会場にお越しください。
※当日の様子はオンラインでも配信予定です。



保坂 美紅さん

好きな写真ジャンルは人や動物。最近のマイブームは文豪ストレイドッグスのアニメを観ることだそう

中原 央太郎さん

写真部部长。好きな写真ジャンルは野球。趣味はYouTube を見ること。芽室西中学校から白樺高校に進学

高橋 諒也さん

好きな写真ジャンルは野球。他にも非現実・非日常的な描写も好きなのだとか

カメラ未経験からのスタート

中原さん、高橋さん、保坂さんは写真部の2年生。写真部に入る前はスマートフォンで写真を撮ることはあったものの、3人とも本格的なカメラを使っていたのは未経験だったそう。

今年度は部のOBでフォトグラファターの鎌田廉平さんの指導を仰ぐなど、写真甲子園参加に向けて準備を進めてきました。複数の写真でテーマやストーリーを表現する『組み写真』に当初は苦戦しましたが、初戦審査に提出した作品『矯正』では、敢えて色をモノクロとし、テーマ性を持たせた写真を作ることができたそうです。

今年度の写真甲子園
初戦審査会
5/28 結果発表 (584校→81校)
▼
ブロック審査会
6/11 結果発表 (81校→19校)
▼
本戦大会
7/25 開会式
7/26～7/28 写真撮影 (7/27 ファースト公開審査会、7/28 ファイナル公開審査会)

写真甲子園

高校生写真部の全国大会。審査によって全国11ブロックから優秀校が選抜され、本戦大会は『写真の町』北海道東川町が会場。当日は同じカメラが貸与される同一条件下で組み写真を制作し、全国一を競います。

白樺学園高校写真部は、今年の7月末に東川町で行われた、全国高等学校写真選手権大会(写真甲子園)の本戦大会に初出場。北海道ブロック代表として、全国の予選を勝ち抜いた学校と技術を競い合い、敢闘賞を獲得しました。

全国を舞台に楽しむ

本戦大会では、撮影日の前日にテーマが発表され、それらを解釈した組み写真を制作します。自由度の高いテーマをどう扱うか、夜遅くまで話し合うなどハードな行程だったそうですが、3人とも「他の出場校との交流など、とにかく楽しかった」と振り返ります。

当日も撮影を断られてしまったり、自然な表情を撮影するのに苦労もありましたが、シヤッターを切る役・被写体の方に話しかける役を交代しながら協力して撮影できたそうです。

ファイナル審査に提出した『結び』は夫婦愛・親子愛などを8枚の写真で表現。審査員からも被写体の表情に評価のコメントが出るなど、一定の手ごたえを掴みました。

そのまますり取れる。それが形として残る(中原さん)「良いと思った瞬間を写し、心を表現できる。その瞬間を思い出せる(高橋さん)「人物撮影は配置や表情づくりが難しい。そのぶん上手いくと楽しい(保坂さん)「と、3人ともそれぞれ特色あるコメントをいただきました。

今後とも魅力的な作品づくりに期待したいと思います！



▲作品の詳細はこちら

ファイナル審査会提出作品
テーマ: えん 題名『結び』



初戦・ブロック審査会提出作品 題名『矯正』



まちのうごき

10月1日 公立芽室病院

公立芽室病院まつりが開催されました



公立芽室病院で、第2回目の公立芽室病院まつりが開催されました。

このお祭りは地域の皆さまとの交流を通じて地域医療を身近に感じてもらう取り組みの一環で、4年ぶりの開催。当日は院長の研谷先生らによるお出迎え講座、なりきりドクター&ナースといった子ども向けブース、電動車いす乗車体験、後援の「公立芽室病院をみんなで支える会」の皆さまによるバルーンアート、屋外のキッチンカーなど10以上のコーナーが設けられ、多くの方々が病院でのお祭りを楽しんでいました。

10月3日 中央公民館

中学生の意見発表会・英語暗唱大会



中学生の意見発表会・英語暗唱大会が行われました。

意見発表会は自分の身近な生活体験や社会問題

をテーマに、最優秀賞は題名「大家族」を発表した松田 詩音さん(芽室中)が選ばれました。英語暗唱大会は音声や表現力などを審査され、2年生の部で最優秀賞に増中 智士さん(上美生中)、3年生の部で栗原 来未さん(芽室中)が選ばれました。

松田さんは11月11日(土)の十勝大会、栗原さんは10月17日(火)の『十勝子ども大会英語暗唱の部』に進出します。

各学校を代表して発表に臨んだ皆さん、お疲れさまでした。

9月29日 国見山自然観察教育林

国見山自然観察教育林ボランティア活動が行われました



国見山自然観察教育林でボランティア活動が行われました。

国見山は帯広市近郊の音更・芽室の2町にまたがって存在し、近隣の小学校、幼稚園や保育園の遠足や地元住民の自然観察会など憩いの場となっています。安心して利用いただくため、管理運営協議会や関係機関を中心にボランティア活動で清掃や散策コースを修繕しています。今日は午前9時半から展望台コースのウッドチップ敷き均しおよび駐車場の木柵の修繕が行われました。

ご協力いただいた関係者の皆さま、ありがとうございました。

10月2日 新嵐山スカイパーク展望台 林道

トラックの森づくり植樹式が行われました。



(一社)十勝地区トラック協会様によるトラックの森づくり植樹式が行われました。

地球環境を守るため、平成15年から各地で植樹式を行っており、今年度は芽室町の新嵐山スカイパーク展望台へ向かう林道に、エゾヤマザクラ15本を植樹していただきました。展望台に向かう方の目を楽しませるため、大切に管理していきたいと思います。

(一社)十勝地区トラック協会様、ありがとうございました。

9月20日 中央公民館

保育士合同研修会の開催



東洋大学 高山 静子教授を講師に迎え、「子どもの学びを支える保育環境作り」～人的・物的・時間の環境～と題し、町内の幼児施設職員を対象に、研修会を開催しました。

講演の中では、大人の言葉の質と、会話の量が子どもの脳の栄養となる話や、質の高い玩具の提供の必要性など、参加者は自分自身の保育を振り返るきっかけとなり、翌日からの保育に活かせる研修となりました。

9月20日、22日 町内

園児たちの思い出の1ページに…

町内在住の「田舎のマジシャン KATO」さん宅のミニ果樹園で、めむろてつなん保育所とめむろかしわ保育園の年長さんを対象にブドウ狩りが開催されました。

KATO さんは全道の保育所等を回ってマジックショーをされている方で、特に芽室町内の園児たちには毎年定期的にマジックを披露していることから、今回、園児たちに感謝の気持ちとして催したそうです。

園児たちからは「楽しい!」「上手にとれた!」「早く食べたーい!」との声が聞こえてきて、思い出の1ページに刻まれたことと思います。

